

1 はじめに

昭和38年、我国はじめての高速道路としての名神高速道路尼崎～栗東(711km)の開通以来、今日に至るまでに決定された整備区間は5415km、うち供用された区間は2531km(昭和54年12月末現在)に及び、大都市との結合強化による経済的、文化的利益を地方都市にももたらすなど、国土利用の効率化の役目を担い、日本国土の骨格を形成する幹線道路として進展してきた。今後は横断道の時代と言われており、この建設が進むに伴ない日本国土はより強力なネットワークで結びつけられることになる。また横断道の建設に付随して機能集積が乏しく、以後の開発が待たれる地域にも諸々の建設による効果が期待される。ところで高速道路が地域社会に及ぼす効果としては、それを受けとめる沿線地域の地域特性によって差異があるが、交通条件の向上という強力なインパクトは生産、輸送の合理化、工業開発効果など地域開発面において、その開発を容易にするという大きなメリットを与える。しかしながら、このような大きな影響を与える高速道路も、受けざらとしての沿線地域の充分な対応がなければ、期待される効果も半減する恐れがある。すなわち、地域にとってプラスの効果が最大に、かつマイナスの効果が最小となるような計画策定が必要である。筆者の調査、研究によれば、高速道路建設前には行政および地域住民ともに高速道路の早期開通を望み、開通後の効果を期待していたが、その対応のまずさから高速道路が開通したにもかかわらず、期待していたような効果が得られず、依然として人口流出が続く、過疎に悩む幾つかの地域のあることが判明している。したがって、高速道路を利用した地域振興計画を策定する際には、地域特性の充分な把握と同時に地域住民の高速道路に対する期待感を考慮しつつ、また不安感を取り去るという方向での検討が必要である。本報告は以上のような認識に立ち、現在まで多くの高速道路が建設されたが地域住民はその効果をどのように評価しているか、また高速道路が自分の住む地域にも供用されたなら、どのような形での地域の振興を考えるかなどの点に的をしぼり、意識調査を通して解析、検討を加えたものである。なお、調査対象地域は横断道建設計画のある秋田県雄平仙地域28市町村である。

2. 調査および調査対象地域の概要

◎調査は昭和57年8月、東北横断自動車道秋田線の通車予定市町村およびその沿線市町村である大曲、横手、湯沢市の3都市および仙北郡、平鹿郡、雄勝郡内25町村を調査対象地域(以下雄平仙地域と称する)として実施した。調査票の内容は「高速道路利用経験の有無」、「高速道路の地域社会への効果の評価」、「東北横断自動車道秋田線の開通がなされた時の自分の住んでいる地域にどの程度の影響があると思うか」などの質問項目から構成されている。調査票の回収率は、配布4382枚、回収1563枚で35.7%であった。

◎雄平仙地域は秋田県南部に位置し、県全面積の35%、県全人口の30%(昭和55年現在)を占めている。産業面についてみると、近年工業など第2次産業が著しい伸びを示しているが、農業の余剰労働力を全て吸収できずまでには至っておらず、依然として雇用の場の不足から人口流出が続いている。加えて出稼ぎ者も県内他地域に比して多く、このよう人口流出に起因する諸々の地域問題の解決は、この地域にとって緊急かつ重要な課題である。それ故、横断道の建設は地域振興を模索する当地域に多大なインパクトを与えるものと行政サイドのみならず、地域住民も期待をよせている。

3 調査結果と考察

調査では、まず最初に「高速道路を利用したことが一度でもありますか」と質問した。これは雄平仙地域には高速道路が通っていないため、現在までどの程度利用したことがあるかを把握するためと以後の解析結果に利用経験の有無がどのように関係するのかを検討するためである。回答結果は約88%の人が利用したことがありと回答しており、高速道路を持たない地域にもかかわらず高率である。このことは、高速道路はもはや沿線

地域住民のみの利用形態ではなく、広く他の地域の人々にも利用されていると言える。次に、現在まで多くの高速道路が建設されてきたが、これら高速道路に対する評価として「高速道路は地域社会に役立つと思いますか」と質問したところ、「非常に役立つ」(69.4%)、「少し役立つ」(30.5%)の結果で、「役立つもの」としてとらえている人は約96%とほとんどの人が高い評価をしている。次に、自地域に横断道が開通した場合、どのような面に影響が出ると思っているのかを把握するため表1に示す18項目について質問した。表はその結果を示すものである。18の項目の中で「思う」と回答した最も高いのは「地域の交通が便利になる」(89.2%)、次いで「他地域との人や物の往来が盛んになる」(83.2%)などの項目で、地域住民は横断道が開通、使用したら雄平仙地域では、交通便利性、交通流動性が向上すると思っているようである。また「地域の道路整備がすすむ」(77.6%)も高率で、交通条件の向上に多大な期待があると思われる。しかしながら、「騒音、排気ガスなどの問題が出る」と思う人が75.3%にも達しており、交通公害に対する対策も同時に考慮しなければならないことを示唆している。次に、この地域での重要課題である人口流出抑止に関する質問「人口の地域外への流出が止まる」では思う人がわずか16.7%で思わない人が過半数の61.0%であった。このことは、現段階では横断道の機能のみでは人口の流出が止まるとは考えておらず、今後より強力な雇用の場の確保、雇用機会の増大等の施策を立てる必要があると言えよう。また、「農業が振興される」と思う人も少なく(48.4%)、「大きな企業、工場が進出する」と思う(55.1%)、「観光、レジャーの開発が進む」と思う(79.9%)などと考えあわせると、やはり高速道路が地域に与える産業面での影響は、工業、商業面に強烈に印象づけられているようである。一方、交通公害と同様な不安感として、地域格差に対する懸念がある。すなわち、高速道路の通達地域と通達しない地域との地域格差、インターチェンジをもつ地域ともたない地域との地域格差を心配する意見も高く、この不安を取り除く努力が必要であろう。「総合的にみて自分の住んでいる地域に横断道の影響がどの程度あると思うか」の質問では、この地域全体で81.6%の人が程度の差はあるものの、建設、使用後は地域に何らかの影響が出ると思っているようである。横断道開通に合わせて地域振興を図る場合どのような産業に力を入れたらよいかを質問したところ、工業(34.9%)、農業(24.0%)、商業(22.1%)の順であった。このうち農業については横断道の建設によって「農業が振興される」と思う人がわずかであったのに、農業の振興を図りたいと考えている人が多いことは注目すべきことである。換言すれば、横断道が開通したからといって農業が振興されるとは思えないが、産業集積の乏しい雄平仙地域で、それでは何に力を入れるべきかということになると、現在までの実績から農業という結果になるのだからであろう。これは、この地域が従来より秋田県内有数の穀倉地帯として位置づけられていた下町の過程からも容易に想像されるが、このギャップをさめる方策が今後の重要な課題として提起される。本調査は雄平仙協議会の協力のもとに実施したものである。ここに紙面をかりて深く感謝の意を表する次第である。なお、数量化理論第Ⅱ類による要因分析は紙面の都合上割愛した。調査時発表したいと考えている。

表-1 東北横断自動車道秋田県開通による影響

要 因	カテゴリー		思 う		思 わない		わ かんない	
			回 答 数	%	回 答 数	%	回 答 数	%
(1) 大きな企業、工場が進出する			236	55.1	394	26.0	288	19.0
(2) 観光、レジャーの開発が進む			1218	79.9	192	12.6	114	7.5
(3) 農業が振興される			278	18.4	930	61.5	305	20.2
(4) 土地の値段が高くなる			1169	77.1	186	12.3	162	10.7
(5) 土地が乱開発される			614	40.5	580	38.3	321	21.2
(6) 高速道路のある地域とない地域で差が出る			1187	78.3	218	14.4	111	7.3
(7) 人口の地域外への流出が増える			253	16.7	925	61.0	338	22.3
(8) 自然環境の破壊につながる			658	43.4	629	41.5	228	15.0
(9) 地域住民に安心、感も与える			256	16.9	867	57.3	390	25.8
(10) 地域のイメージが向上する			939	62.1	336	22.2	236	15.6
(11) 騒音、排気ガスなどの問題が出る			1145	75.3	270	17.8	105	6.9
(12) 地域間の交通が便利になる			1355	89.2	117	7.7	47	3.1
(13) 地域の道路整備が進む			1124	77.6	211	14.6	113	7.8
(14) 大型店舗が進出してやすくなる			772	51.0	471	31.1	272	18.0
(15) 他地域と人の往来の往來が盛んになる			1263	83.2	157	10.3	98	6.5
(16) 一般の道路の交通混雑が解消される			1051	69.2	361	23.8	107	7.0
(17) 工場の多い地域とない地域で格差が生じる			1062	69.9	306	20.1	151	9.9
(18) 地域内の交通量が増加する			866	57.0	476	31.4	176	11.6

地域住民のみの利用形態ではなく、広く他の地域の人々にも利用されていると言える。次に、現在まで多くの高速道路が建設されてきたが、これら高速道路に対する評価として「高速道路は地域社会に役立つと思いますか」と質問したところ、「非常に役立つ」(69.4%)、「少し役立つ」(30.5%)の結果で、「役立つもの」としてとらえている人は約96%とほとんどの人が高い評価をしている。次に、自地域に横断道が開通した場合、どのような面に影響が出ると思っているのかを把握するため表1に示す18項目について質問した。表はその結果を示すものである。18の項目の中で「思う」と回答した最も高いのは「地域の交通が便利になる」(89.2%)、次いで「他地域との人や物の往来が盛んになる」(83.2%)などの項目で、地域住民は横断道が開通、使用したら雄平仙地域では、交通便利性、交通流動性が向上すると思っているようである。また「地域の道路整備がすすむ」(77.6%)も高率で、交通条件の向上に多大な期待があると思われる。しかしながら、「騒音、排気ガスなどの問題が出る」と思う人が75.3%にも達しており、交通公害に対する対策も同時に考慮しなければならないことを示唆している。次に、この地域での重要課題である人口流出抑止に関する質問「人口の地域外への流出が止まる」では思う人がわずか16.7%で思わない人が過半数の61.0%であった。このことは、現段階では横断道の機能のみでは人口の流出が止まるとは考えておらず、今後より強力な雇用の場の確保、雇用機会の増大等の施策を立てる必要があると言えよう。また、「農業が振興される」と思う人も少なく(48.4%)、「大きな企業、工場が進出する」と思う(55.1%)、「観光、レジャーの開発が進む」と思う(79.9%)などと考えあわせると、やはり高速道路が地域に与える産業面での影響は、工業、商業面に強烈に印象づけられているようである。一方、交通公害と同様な不安感として、地域格差に対する懸念がある。すなわち、高速道路の通達地域と通達しない地域との地域格差、インターチェンジをもつ地域ともたない地域との地域格差を心配する意見も高く、この不安を取り除く努力が必要であろう。「総合的にみて自分の住んでいる地域に横断道の影響がどの程度あると思うか」の質問では、この地域全体で81.6%の人が程度の差はあるものの、建設、使用後は地域に何らかの影響が出ると思っているようである。横断道開通に合わせて地域振興を図る場合どのような産業に力を入れたらよいかを質問したところ、工業(34.9%)、農業(24.0%)、商業(22.1%)の順であった。このうち農業については横断道の建設によって「農業が振興される」と思う人がわずかであったのに、農業の振興を図りたいと考えている人が多いことは注目すべきことである。換言すれば、横断道が開通したからといって農業が振興されるとは思えないが、産業集積の乏しい雄平仙地域で、それでは何に力を入れるべきかということになると、現在までの実績から農業という結果になるのだからであろう。これは、この地域が従来より秋田県内有数の穀倉地帯として位置づけられていた下町の過程からも容易に想像されるが、このギャップをさめる方策が今後の重要な課題として提起される。本調査は雄平仙協議会の協力のもとに実施したものである。ここに紙面をかりて深く感謝の意を表する次第である。なお、数量化理論第Ⅱ類による要因分析は紙面の都合上割愛した。調査時発表したいと考えている。

第14回日本道路会議

(参考文献) 折田清秋「高速道路開通に伴う周辺地域住民の意識の動向について」一般論文集 P13~14 1981 地